

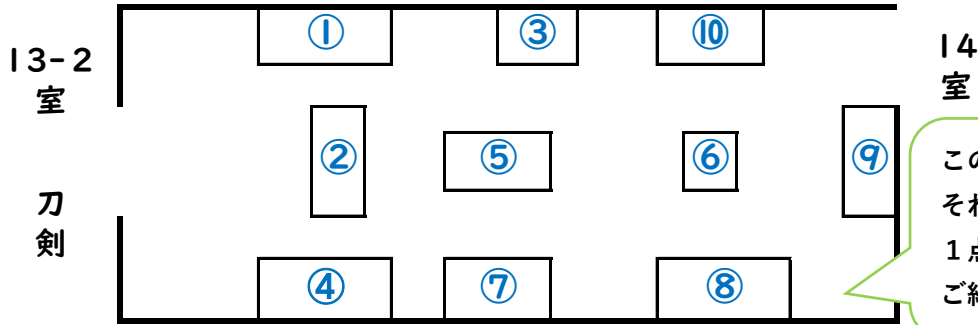
本館 1階 13-3室 陶磁へようこそ

東京国立博物館ボランティア
陶磁ガイドグループ WEB新聞
令和 3年12月発行【第1号】

私たちは、東京国立博物館ボランティアの陶磁ガイドグループです。
いつもは、本館1階13-3室に展示されている日本の陶磁器のガイドをしていますが、
現在、ご来館いただいたお客様とお顔を合わせてガイドすることができない状態です。
そこでWEB新聞の形で、現在展示されている作品(令和4年1月30日(日)まで)の中から
ボランティアお勧めの作品をご紹介します。

本館13-3室では、奈良時代(今回展示は平安時代)から江戸時代までの日本陶磁器の歴史を、
時代の流れに従って、産地や様式で分類して、展示しています。

本館1階13-3室のレイアウト



この新聞では、
それぞれの展示ケースから
1点ずつ、お勧めの作品を
ご紹介します。

<p>展示 ケース ①</p>		<p>[重要文化財] 黄釉牡丹唐草文広口壺(おうゆう ぼたんからくさもん ひろくちつぼ) 瀬戸 鎌倉時代・14世紀 高さ27.1cm 口径16.7cm 底径14.3cm</p> <p>茶色の作品の中、黄味を帯びた色で目を引くこの壺は鎌倉時代に作られたお酒をいれておく器です。よく見ると牡丹の大きな花が4輪のびやかに彫られています。勇ましい鎌倉武士たちがこの壺の中のお酒を飲んで、ゆったりと過ごしている姿を想像してみてくださいはいかがでしょうか。(担当：K・H)</p>
<p>展示 ケース ②</p>		<p>[重要文化財] 鼠志野鶴鴿文鉢(ねずみしのせきれいもんはち) 美濃 安土桃山~江戸時代・16~17世紀 高さ11.0cm 口径28.5cm</p> <p>青味が美しい、個性的な形の鉢です。岩の上にとまるように描いた一羽の鶴鴿(セキレイ)が、何とも愛らしいです。お茶席で料理を盛り、参加者が回して取っていく時に使いました。器を鑑賞しながら安土桃山時代の茶会にタイムスリップしてみませんか。(担当：M・M)</p>
<p>展示 ケース ③</p>		<p>片身替釉茶碗 銘 深山路(かたみがわりゆう ちゃわん めいみやまじ) 高取 江戸時代・17世紀 高さ7.2cm 口径1.5×13.5cm 底径6.0cm</p> <p>乳白色と飴色の二色のうわぐすりを掛け分けています。安土桃山時代に流行した、和服の左右の色目や模様が異なる片身替(かたみがわり)と言われるデザインを応用しています。また、胴を著しく変形させ胴の周りにヘラの先で力強く文様を刻み込んでいます。大胆ですが粗野でないところが特徴です。(担当：H・A)</p>
<p>展示 ケース ④</p>		<p>[重要美術品] 色絵飛鳳文隅切膳(いろえ ひほうもん すみきりぜん) 奥田穎川作 江戸時代・18~19世紀 高さ7.3cm 径30.7cm 大河内正敏氏寄贈</p> <p>上に載せる料理がかすんでしまいそうなほど鮮やかな色を使い、鳳凰や花、魚などがのびのびと躍動感ある筆致で描かれています。作風は中国呉州赤絵を手本としながらも、器の形は日本風の脚がついた隅切(すみきり)と呼ばれる四方の隅を切り落としたもの。見事な和漢融合の作品です。(担当：N・O)</p>

展示ケース⑤



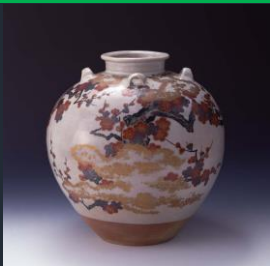
銹絵十体和歌短冊皿(さびえ じっていわかたんざくざら)

乾山

江戸時代・寛保3年(1743) 縦 28.7cm

和歌の短冊そのままに、青と紫の雲を背景に筆を走らせ、そのままやきものにしてしまう遊び心のある乾山81歳の作です。紙に書くのとは違うやきもののツヤが筆の濃淡を強調しています。文字も伸びやかに見えます。乾山は実用的な器も作った人ですが、このお皿は、実際に使うとしたら何を載せるか想像してみてください。お皿の向きはやはり縦でしょうか。(担当：K・N)

展示ケース⑥



[重要文化財] 色絵月梅図茶壺(いろえ げつばいず ちゃつぼ)

仁清

江戸時代・17世紀 高さ 29.9cm 口径 10.6cm 底径 11.4cm

ふっくらと丸みをおびた茶壺です。優しい象牙色の生地の上に、満月の下で咲き誇る紅白の梅の花が描かれています。月と白梅の銀彩は今は黒ずんでいますが、制作当時の銀の輝きを想像しながらご覧ください。京焼色絵の大成者として名高い、野々村仁清の代表作の一つです。(担当：M・I)

展示ケース⑦



染付岩鹿水禽文輪花鉢(そめつけ いわかすいきんもん りんかばち)

伊万里

江戸時代・17世紀 高さ 13.6cm 口径 33.5cm 高台径 14.4cm

「白い素地に青色の文様」のやきものは、いろいろな国の人々を魅了してきました。日本では染付(そめつけ)と呼ばれています。この鉢は鮮やかな青色の濃淡で外側にも内側にも文様が隙間なく描かれています。何が描かれているのでしょうか。中央にいるのは水鳥のカモでしょうか。鉢の縁は花びらの形です。(担当：B・I)

展示ケース⑧



色絵松竹梅牡丹鳳凰文大皿(いろえ しょうちくばいぼたんほうおうもん おおざら)

伊万里(柿右衛門様式)

江戸時代・17世紀 高さ 7.1cm 口径 35.2cm 底径 19.4cm

「柿右衛門様式」とは輸出磁器として伊万里焼が生み出した一様式です。乳白色の「濁手(にごしで)」といわれる素地が人気でした。中央には鳳凰を配し、周囲を八つに分けて赤の牡丹唐草文と松竹梅牡丹を交互に色絵具で描いています。素地の白さに赤青緑黄の色絵の艶やかさが引き立つ豪華な大皿です。(担当：Y・S)

展示ケース⑨



色絵花卉図大皿(いろえ かきず おおざら)

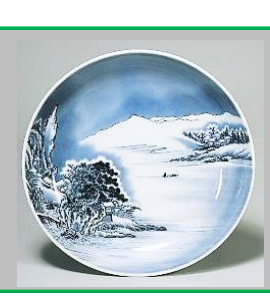
伊万里

江戸時代・18世紀 高さ 6.2cm 口径 57.0cm

横河民輔氏寄贈

真中に「牡丹」の花を生けた花瓶があり、その周りに椿や菊の花を散らして、空間を文様で埋め尽くしています。白地に藍、緑、赤などの対比が鮮やかで、所々に使われている金彩が絢爛さを増しています。鑑賞のポイントは、赤と金彩で大胆かつ華麗な描写となっている点です。(担当：T・A)

展示ケース⑩



染付雪景山水図(そめつけ せっけいさんすいず おおざら)

鍋島

江戸時代・18世紀 高さ 7.9cm 口径 30.3cm 高台径 15.2cm

「鍋島」は、佐賀県伊万里の大川内山(おおかわちやま)にあった鍋島藩御用窯で焼かれた磁器です。この作品は、中国の水墨画を手本とした絵画風ですが、染付(そめつけ)だけを使った迫真的な描写は、焼き物の絵付けとは思えない世界を表現しています。(担当：M・K)